

# 北空知4町地域公共交通計画の目標達成状況

資料4

	評価指標	R3基準値 (計画策定時)	R4実績値 (今回測定)	増減	R8目標値	達成状況
A	公共交通の利用者数	10.9人/便	10月以降判明	-	10.9人/便	-
B	公的資金が投入されている公共交通事業の収支率	50.6%	48.9%	▲1.7%	50.6%	↓
C	公共交通への公的資金投入額	155,417千円/年度	141,687千円/年度	▲13,730千円/年度	155,417千円/年度	↑
D	公共交通を月に1回以上利用する住民の割合	17.3%	計画見直し段階で調査	-	20.0%	-
E	地域間の移動者数	37,976人/年	33,721人/年	▲4,255人/年	40,000人/年	↓
F	公共交通カバー率	74.1%	-	-	82.0% ※R7目標値	-
G	各町における情報提供状況の確認	各町で実施	各町で実施	-	協議会等で情報共有	→
H	観光入込客数	895千人/年度	1,031千人/年度	+136千人/年度	928千人/年度	↑
I	広域交通（地域間幹線系統）との接続状況の検証	実施	実施	-	協議会等で検証実施	→

# 北空知4町地域公共交通計画推進管理状況(概要)

## 基本方針

利便性を確保した合理化等の実施による持続的な公共交通の確保

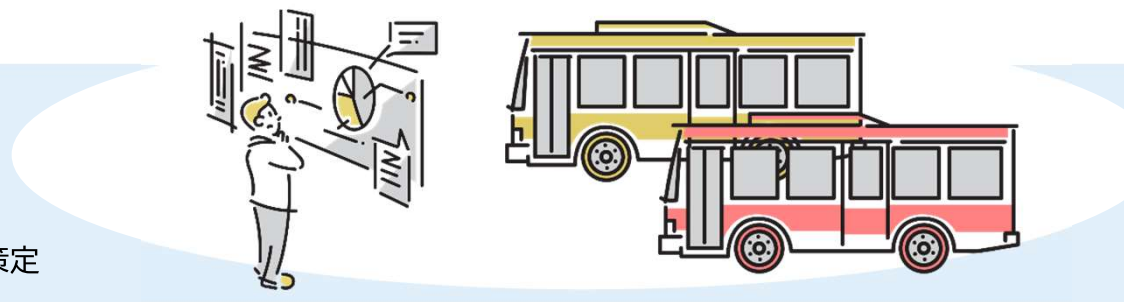
## 目標

- ①多様な目的へ対応し、利便性の向上及び目的地までの速達性に配慮した広域交通の確保
- ②利便性の高い生活移動の実現に向け、最適化を図った持続可能な地域間交通の確保
- ③地域内での生活を豊かにする生活圈交通の確保

## R 4 年度の主な取組 (成果)

### 北空知4町地域公共交通計画の策定

北空知4町地域公共交通活性化協議会において、地域住民の生活を支え、持続可能な将来の交通体系を構築するため、地域公共交通のマスタープランとなる「北空知4町地域公共交通計画」を策定



## R 5 年度の主な取組

### JR留萌本線(深川・石狩沼田間)廃止後の新たな交通体系構築のための協議

JR留萌本線の深川・石狩沼田間が廃止されるR8.3末までに、特に通勤・通学利用者の利便性を考慮したバス待合所・停留所の整備を推進

### 公共交通の利用促進活動の実施

利用者数の増加に向け、地域住民(高齢者)に対してタクシー運賃の助成や利用券の配布などを実施し、公共交通機関を利用するための意識醸成を図る



### 路線の維持及び最適化

バス路線の在り方の検討や地域間幹線検討確保維持費補助金などを活用した維持、また、利用者数が少なく補助要件を満たすことが難しい路線について起終点や運行区間が近い路線の最適化について検討

### バス乗換案内時刻表の作成やホームページでの情報発信

利用者がわかりやすい公共交通を目指し、バス乗換案内時刻表の作成のほか、本地域に居住する住民だけでなく、来訪者でも活用できる情報発信を目的に広報誌やHPIによる情報発信を推進



基本方針

公共交通の利用促進・持続性の確保

目標

④公共交通を住民及び来訪者に知ってもらう、使ってもらうための利用促進策の展開

R 4 年度の主な取組 (成果)

廃止路線に関する住民説明会の開催

路線の廃止について、公共交通網が大きく変化することから、地域住民に対して説明会の開催や広報誌、HPを活用し、迅速な情報提供を実施



観光客取込を目的とした駅名案内版の設置



難読地名である町名をSNSを通じて情報発信し、PRすることを目的として妹背牛駅に町のキャラクターを使用したユニークな駅名案内板を設置

R 5 年度の主な取組

ICT技術の活用に関する勉強会の開催

Kitacaエリアの岩見沢・旭川間への拡大を契機に、振興局・市町・JR・バス事業者と協働してICT技術の活用に関する勉強会を開催し、シームレス交通の実現や、地域振興への活用に向けた検討を実施

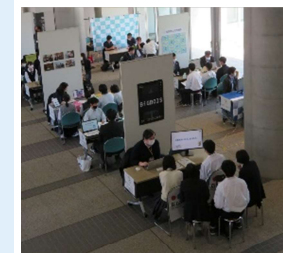


各自治体の観光部局や観光協会と連携した取組を検討・実施

住民だけでなく観光客も利用しやすい公共交通に向けて、観光協会等と連携した情報発信の実施や先端技術を取り入れたスマートで質の高い公共交通の実現に向けた取組を検討

バス運転手の確保に向けた魅力発信

公共交通の運行に必要なバス運転手を確保するため、運転手の業務について合同企業説明会で魅力発信するとともに、移住希望者等への広報活動と連携した人材確保を促進



(R5.6.20「地元企業合同説明会」の様子)